

どのため、

い知識を身に付けまれ火器の使い方や点給

方や点検方法な

まし

正 消 L

を守る 災を早期 八災警報 に発見

あったと考えられ気付いていれば、い 住宅火災による死者が多く発生して住宅火災による死者が多く発生している時 火災による死者の発生原因 〒数以上は高齢者となっは「逃げ遅れ」による5 る時間帯は就寝時間帯です。 41 助か早 もので、 つ たケースも て の約 ・ます 住宅 そ 6割

市で

■設置場所

【図1】平成22年登米市火災発生件数および損害額

	(単位 区分:件 損害額:千円)						
月別区分	建物	山林	車両	その他	合計	火災損害額	
1月	2		1	2	5	6,844	
2月	2				2	4,708	
3月	1		2	2	5	1,419	
4月	3	1		2	6	7,184	
5月			1		1	470	
6月			1	3	4	119	
7月	2	1	1	1	5	13,242	
8月	1		2	1	4	133	
9月	2	2		2	6	8,832	
10月	1				1	6,476	
11月	3	1	1	1	6	731	
12月	1				1	24,420	
平成22年	18	5	9	14	46	74,578	
平成21年	26	1	6	17	50	46,462	
容料「2011年 消防年報 とめ」							

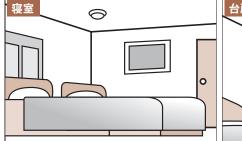
ガをしたりするこ 破裂して思わぬケ 場合は、 サ ビや損傷などの

を使 に効果的に消火器 とがあります。 「いざ」という時 消火する る

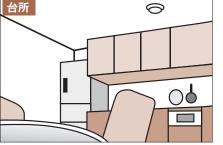
しょう。 ため、 わ < の消

資料「2011年 消防年報 とめ」 できなかったり、用方法のため使用のため使用のためであることも重要です。 です。炎によって火できる炎の目安 全な場所に避難す 身の危険を感じた 素早く安

逃げ遅れ防止に効果を発揮します 台所



就寝に使用する部屋の天井、または壁面に設 置します (煙式が有効)。



台所の天井、または壁面に設置します(熱式 が有効)

宅用火災警報 れています。 実際 れています。実際 おかげで、大います。実際に、 ースが多くあ 実際に、 大事に至ら り、 八事に至らなかった、住宅用火災警報界の設置を義務付けて 0 多く \mathcal{O} 命 が救 b た器 Ť

早急に住宅用 分からないことが せくださ 火災から大切 まだ設置をさ 防本部 住宅用火災警報器につ 火災警 な生命 消 :防署まで ある場合は、 報器を設置報器を設置 を守る 置 63 お近てま してしまは、

空気の乾燥や暖房機器の使用などにより、火災が発 生しやすくなるこの季節に合わせ、火災の予防や高齢 者などを中心とする火災による死者の減少を目的とし た「秋の全国火災予防運動」が11月9日から15日まで 実施されます。

また、消防署では防火に関する研修会などの開催を 常時受け付けています。お近くの消防署へお気軽にご 相談ください。

火災予防のポイント

【3つの習慣】

①<mark>寝たばこ</mark>は絶対しない ②ストーブは、燃えやすいものから離し て使用する

③ガスこんろなどのそばを離れるときは、 必ず火を消す 【4つの対策】

D逃げ遅れを防止するため、<mark>住宅用火災</mark> 警報器を設置する ②寝具やカーテンなどは、防炎品を使用

する ③初期消火のために、<mark>住宅用消火器</mark>など

を設置する ④高齢者や体の不自由な人を守るために、 隣近所の協力体制をつくる



火災から大切な命、財産を守る!そのために…

日ごろからの注意で火災を防ごう













市

0)

火災原

因 0

で







減少していま火災は46件。 日から12月 て内いの は います 31日まで) 火災件数は、 前年同期に比 平成22年 に、 年々減少 発生した べて4 月

林野火災は4件増加の5件と、44件、車両火災は3件増加の9件と、4少の18件、その他火災が3件減 による 的な発生件数は減少して 発生区分では、 の18件、その他火災が3件火災件数では、建物火災が 「建物火災」 います。 9件、 8

か

な

41

れ続いき 46万円) 火の主 失われたことになり また、 「たき 放火 な原因となって **疑** 火原因別では昨 日約 を含む)」 「コンロ」、 720万円が火災で7月(前年は46 ます 、ます 図 1]。 などが出 い 「 火 入 い 「 火 入 (図2)

> 消火のポイントは 火器を使って消火

「ゆっくり・

慌て

しま

着

て

ることです

青額は7458万円14状況となっておりとの「その他火災」 炎」や、枯れ草火災 コンロなどの出火 の発生 一割合が 全体 の減

高い状況

損害額は7

火災が て ず 発 初 生 したら 消 火



災が大きくなることを防ぐことがで 初期の 段階で消 して 一火できれ ま って 火

さ 11 う うちであれば よう。水 水や消

きます

火が・

意して火災予防に努め 【コンロ】つけた火は、 【たき火】屋外での の強 離さな 火原 大 日を避け から見る 見た左記の事項に とができま, る。 たき火などは、 最後まで目を 項に 風 注

してから。 γ, γ その 場を離れ る時は火

【放火】家の周りに燃えやす気象状況・周囲の状況に 火を い物を置 に注意する。

Bなどで、

を消

ができる取り組みなどについて改めて考えてみができる取り組みなどについて改めて考えてみ火標語は「消したはず 決めつけないで もう一年の全国火災予防運動が実施されます。平成23年発生しやすい時季を迎え、11月9日から15日まことから、例年火災が多く発生しています。そことからの季節は、暖房器具など火を取り扱 財産を火災から守るため、 が大きな被害に 改めて考えてみ もう一度」 つながる 日までの 23年度の全国統一院日までの1週間、砂そのような火災がり扱う機会が増える ŧ 火災 よう。 たち 防秋がる

3 | Nov.2011

「ちょっ

た不注意」